

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 368

事務事業名	街中にぎわい創出事業
-------	------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	商工観光部		
課名	商工振興課		
課長名	高取 和也	内線	240
担当者名	堀口 一成	内線	245

基本目標		活力に満ちた産業のまち
政策	040201	活力ある商工業の振興
施策		商店街の振興
関連施策		

会計	一般会計		
款	7	商工費	
項	1	商工費	
目	2	商工業振興費	
事業コード	020203	中心商店街対策事業	

事業類型	5	負担金・補助金事業
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	中央商店街を中心とした中心市街地		
意図 対象をどのような状態にしたいか	街中で誰もが自由に入出し活性化等について意見交換できる施設の運営や、定期的なイベントを開催し、空き店舗の減少を図ることで商店街に人を呼び戻し賑わいを取り戻す。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	次の取組の費用の一部を補助する。 (1)「まちかど研究室」の運営及び大村市中央商店会が中心市街地活性化のために実施するイベント (2)大村商工会議所が中心市街地活性化のために実施するイベント		
事業期間	平成 12 年度 ~ 平成	年度	実施方法 補助
根拠法令、要綱等	大村市商工観光振興事業費補助金交付要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	無		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① イベントや展示会などの回数	計画値	35	30	30	30	
		実績値	34	33	30		
		達成度	97.1%	110.0%	100.0%		
活動指標	②	計画値					
		実績値					
		達成度	%				
成果指標	① まちかど研究室を利用した人数	計画値	15,000	15,000	12,000	10,000	
		実績値	10,770	11,876	10,313		
		達成度	71.8%	79.2%	85.9%		
	② テナント出店率	計画値	92.5	87.2	89.2	89.8	
		実績値	87.2	89.2	89.8		
		達成度	%	94.3%	102.3%	100.7%	
	テナントが出店している店舗数/店舗総数	達成度	%				

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	3,140	3,980	1,500	1,300	1,300	1,300	1,300	0
国庫支出金								
県支出金	600	600						
地方債								
その他								
一般財源	2,540	3,380	1,500	1,300	1,300	1,300	1,300	
② 人件費(千円)	649	975	870	797	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	0.07	0.12	0.12	0.10	まちかど研究室の運営費の補助を行う	まちかど研究室の運営費の補助を行う	まちかど研究室の運営費の補助を行う	
時間外勤務(時間)		34	12	35				
嘱託等人数(人)	0.05							
フルコスト(①+②千円)	3,789	4,955	2,370	2,097				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	まちかど研究室は、利用者数の計画値は達成していないが歌声サロンなど新しい企画を立てて利用者数は増加傾向にある。 また、中心市街地の活性化のため、大村市中央商店会実施のイベントへの協力、「イルミネーション事業(大村商工会議所)」を実施した。
事業が抱える問題・課題等	平成28年度まで中心市街地のにぎわいを創出する取組であるイルミネーション事業について補助を行うが、イルミネーション事業については、効果を図る具体的な目標がない。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	中央商店街のにぎわいを取り戻し、活性化を図るためにも、空き店舗対策事業の一環としてまちかど研究室に対する支援は必要である。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	多くの都市機能が整備されている中心市街地を活性化させ有効活用していくことは、大村市にとって重要なことである。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	まちかど研究室は、歌声サロンなど新たな企画を立てて利用者増を図っている。						
効率性	【施策貢献度】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	中心商店街の活性化事業として有効である。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	対象者は、市民全般に及ぶ。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	対象者は、市民全般に及ぶ。						

※事業類型が1~3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	現状維持	
--------	------	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	まちかど研究室は、様々な企画による中心商店街の交流拠点であり、集客を行い賑わいを取り戻すことに効果があるため、引き続き事業を行う。また、中心市街地のにぎわいを創出する取組であるイルミネーション事業について、商工会議所に補助を行う。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	

1次評価	今後の方向性	現状維持		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。